

熱帯アフリカの養豚フロンティア—ケニアにおける中小経営の変化と地域分業システム—

Pig raising frontiers in Tropical Africa: Changing small and medium sized piggeries and their regional system in Kenya

上田 元^{1*}
UEDA, Gen^{1*}

¹ 東北大学大学院環境科学研究科

¹ Graduate School of Environmental Studies, Tohoku University

1990年代初頭以降、東・南部アフリカでは養豚が顕著に拡大してきたが、その経営内容については不明な点が少なくない。本発表では、熱帯地域における豚の新家畜としての導入前線である「養豚フロンティア」として、ケニア、セントラル州のニェリ・カウンティとニャンザ州のホマベイ・カウンティをとりあげ、中小生産者が養豚の開始以来、とくに2009年から2012年にかけて経験した経営の変化をとらえる。舎飼いについては飼料価格高騰が、都市部とその周辺における放し飼いについては作物被害や衛生問題が、それぞれ主な理由となって、子取り経営、肥育経営、一貫経営の間の移動や、養豚からの撤退が起こっていることを明らかにするとともに、そうした変化を規定する立地条件、さらには農村養豚と都市養豚の間の地域分業の存在を指摘する。フロンティアでは養豚を軌道に乗せる工夫や経営変化がより多様にあらわれ、そこでの事例は、回転の速い食糧供給手段であり貧困削減効果を期待される養豚の、熱帯アフリカにおける普及・持続の要因を検討する手がかりとなる。

キーワード: 養豚, 中小生産者, ケニア, 熱帯アフリカ

Keywords: pig husbandry, small and medium sized producers, Kenya, Tropical Africa